



様式第4号（第7条関係）

令和8年2月16日

東かがわ市議会議長
工藤正和様

東かがわ市議会議員
(個人・会派・その他)
同友志会 田中 貞男

行政視察等報告書

1	日時	令和8年2月10日	
2	参加者	田中貞男・橋本 守	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		徳島県南部総合県民局と高校生のコ ラボによる堆肥化について	徳島県阿南市宝田町宝田キャンパス 阿南光高校
4	研修・調査内 容	1 高校生の取組が10年も前から始まったきっかけは。 2 高校生は阿南光高だけの生徒での取組か。それ以外の高校も関わって いるのか。 3 県と取り組むこととなったきっかけは。 4 阿南市との関わりはあるのか。 5 民間会社の連携について。	
5	研修成果	別紙のとおり (感想・今後の取り組み等)	
6	費用	なし	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

阿南市「徳島県南部総合県民局と高校生のコラボ」による堆肥化について

元々は、徳島県立阿南光高校(前身校 新野高校)が校内で草花を飾る運動をしていたところ、2011年に徳島県南部総合県民局県土整備部より、道路や公園等の草の処分に経費が掛かりすぎることから、活用できないか相談があり、「緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム」を立ち上げ活用に向けた研究がスタートした。

活動している学校は、小松島西、小松島、徳島北、徳島市立高校で、環境活動に関心がある生徒の有志の取組みとして、活動をしてきている。

活動メンバーがOBOGとして残り「刈草バイオマス工房・みらい」を立ち上げ、生徒と連携して行っている。徳島大正銀行や大学(徳島・愛媛・徳島文理・四国)などの関係者もメンバーとして関わっており、現在54名で活動している。また、民間企業からは広報に向けた支援をいただいている。

たい肥を作るには、市などが河川等から刈り取りをした草を搬入して、米ぬかを混ぜて、散水や踏み込み作業を繰り返し行い、発酵させて完成している。また、竹などをチップにして発酵させ、乳酸菌と混ぜることで、家庭から出る生ゴミもたい肥化している。

施設については、徳島県の施設を間借りしている。経費については、4名の雇用が発生しているが900万円ほどで行っており、10kgを300円で販売をしている。

「もったいない2号」については、肥料取締法に基づく成分検査を行い「窒素・リン酸・カリウム」の成分が認められ、県の認定リサイクル製品認定証を取って販売をしている。

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチームは、これまでに環境大臣から「IONエコワングランプリ・グッドライフアワード・地球温暖化防止活動・循環社会推進功労者・気候変動アクション」賞をいただいております。令和8年は、陸前高田の復興に防災・街づくりとして桜の植樹に肥料提供した実績が評価され、総務省第30回防災まちづくり大賞をいただくとのこと。

また、これまでに、東京五輪・パラリンピックに参画し花壇や植樹肥料、また、2025年の大阪関西万博では万博のグリーンワールドの樹木の肥料に採用されている。

研修成果

刈草後の焼却処分をして高額な費用が発生していた。SDGsの持続可能環境社会を進める中で、経費が抑えられていることで、これからの取組を考えていくきっかけをいただいた。

阿南市視察写真



堆肥化施設

たい肥ができるまでの説明



製品化されたたい肥

生ゴミを処理するたい肥